

# 地域の空間資源を活かして使うことへの取り組み ～既存住宅改修方法の提案～

ストックの時代を生き抜くために、私たち建築士はどのような知識を習得し、職域を發展させるべきでしょうか。東京建築士会ストック委員会ではこの問題について調査・検討を進めています。

今回は「地域の空間資源を活かして使うこと」をテーマに、性能が高いとはいえない既存の住宅に対し、建築士が関与することで実現する性能向上改修の手法を「住宅医」(患者 [= 既存住宅及びその施主])の状態をきちんと把握して対処できる人材)として長らく活動されている三澤文子先生に講義していただきます。

建築士がかりつけ医のように、地域の空間資源(ストック)に係ることが、これからの建築士の役割として期待されるために、この講習で知見を深めていただければと思います。

## 講師

**三澤 文子** Ms 建築設計事務所代表  
岐阜県立森林文化アカデミー客員教授

みさわふみこ：1956年静岡生まれ。1979年奈良女子大学理学部物理学科卒業、(株)現代計画研究所を経て1985年三澤康彦と共に大阪にてMs建築設計事務所設立。林産地と都市の住まい手とを結ぶ活動を木造住宅設計に取り込み、数多くの「木の家」を設計する。1995年、阪神淡路大震災を契機に被害調査活動とともに仲間と木構造住宅研究所(後にMSDに改名)を共同設立し、1996年よりMOKスクールを開催し現在も継続中。各地の木造塾の立ち上げに協力するなど、この頃より木造教育にかかわる。2001年～2009年岐阜県立森林文化アカデミー教授、その後客員教授。2011年～2014年京都造形芸術大学通信大学院教授。現在Ms建築設計事務所 主宰。



作品はケナル山荘、白水湖畔ロッジ、北沢建築工場など多数。  
著書に「木造住宅の可能性」(INAX出版)、「住宅に空間力を」(彰国社)、「最高の木造住宅をつくる方法」(エクスナレッジ2010)がある。2007年日本建築学会賞教育賞受賞、2013年日本建築士会連合会賞優秀賞(北沢建築工場)

## 講義内容

今後の人口減少、空家の増加など考えれば、これからは「住宅」を、新しく造ることより、既存建物を治して使うことに視野を向けていくべき時期にきています。このような「もはや造らない時代」を前にして、既存住宅の調査診断技術を習得し、さらに改修設計施工技術に優れた建築実務者(建築士)の存在が注目されていきます。

既存住宅を、性能向上させ再生させるためには、単に知識だけでなく、分析力、技術力、実践力が備えなければなりません。そのためには、継続的に新しい知識を学び、経験を共有する場が必要になってきます。

まず、そのような場をつくること。そして「既存住宅の調査診断を含めた改修方法」を提案し、「かかりつけの医者のように住宅を診て治す」力をつけた「住宅医」を育成する必要性があると思っています。

14:00～14:05 (5分)	開会の挨拶	
14:05～15:35 (90分)	講義	既存住宅改修方法の提案 ～かかりつけの医者のように住宅を診て治す力をつける 三澤 文子
15:35～15:45 (10分)	休憩	
15:45～16:55 (70分)	ディスカッション	地域の空間資源を活かして使うことへの取り組み ～住宅設計者としての建築士のこれから 三澤 文子、川崎 修一(ストック委員会委員長)、丸山 晃寿(ストック委員会委員)
16:55～17:00 (5分)	閉会の挨拶・インフォメーション	

開催日

# 2019年 9月6日 金

会場 東京建築士会 会議室

東京都中央区日本橋富沢町 11-1 富沢町 111 ビル 5 階



【開催時間】14:00～17:00(受付開始 13:30) 【定員】70名(申込先着順)

【受講料】東京建築士会正会員 3,000円(税込) 一般 4,000円(税込)

【申込方法】チラシ裏面をご参照ください。【CPD】3単位 ※本セミナーは、CPD 認定セミナーです。

【主催】：一般社団法人 東京建築士会 / 【企画】：東京建築士会ストック委員会

講習会の情報は <https://tokyokenchikushikai.or.jp/> (東京建築士会 HP)

